



2021年度 6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催

教務課

2021年6月21日（月）～24日（木）の4日間、創立130周年記念館にて6年次生の卒業論文発表会を開催しました。グローバル人材育成の一環として、全員が英語でのポスター作成・発表・質疑応答を行いました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1回あたりの発表者の人数を制限し、他の年次の学生及び海外学術交流協定校の教員や学生の参加を見合わせました。また、発表者及び評価者は、マスクとフェイスシールドを着用し、発表や質疑応答を行いました。



発表終了後には、卒業アルバムのための写真撮影も行われました。途中、天気が急変することがありましたが、盛会のうちに全日程を終えることができました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

※感染防止対策を講じて開催しました。

CONTENTS

■ 特集

2021年度前期 ハイブリッド型授業について…………… 4

■ ご挨拶

新任のご挨拶…………… 3

■ コラム

水中でぶつぶつ…………… 16

卒業生からのメッセージ…………… 18

私の薦める、私の一冊…………… 13

学生相談室だより…………… 17

■ イベント

2021年度 6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会…………… 1

2021年8月「オンラインオープンキャンパス」…………… 9

理科実験講座

「身近な夏の不思議体験 2021 イン山科」…………… 10

卒業生・在学生交流会（オンラインLIVE）…………… 11

■ 報告

【寄稿】名誉教授授与にあたって…………… 3

第106回薬剤師国家試験の結果について…………… 6

2022年度大学院の入学選考結果…………… 8

2020年度授業評価集計結果の報告…………… 14

受賞・掲載…………… 18

京都薬科大学奨学金寄附金芳名録…………… 20

■ お知らせ

人事異動…………… 3

京薬会だより…………… 9

2021年度生涯研修プログラムのお知らせ…………… 12

Library News…………… 15

<2021年度 卒業論文発表会スケジュール>

日時		系	分野等
6/21 (月)	13：30～14：00	準 備	
	第1部 14：00～14：40	分析薬科学	薬品物理化学
	14：40～15：20	生命薬科学	公衆衛生学 病態生理学
	(40分交代)	統合薬科学系	
	15：20～15：50	休憩・ポスター貼替	
	第2部 15：50～16：30 16：30～17：10 (40分交代)	病態薬科学	薬物治療学 臨床薬理学 薬理学

6/22 (火)	13：30～14：00	準 備	
	第3部 14：00～14：40 14：40～15：20 (40分交代)	創薬科学	薬化学 薬品製造学 薬品化学 生薬学
		附属施設	薬用植物園
	15：20～15：50	休憩・ポスター貼替	
	第4部 15：50～16：30 16：30～17：10 (40分交代)	生命薬科学	衛生化学 微生物・感染制御学 細胞生物学 生化学

6/23 (水)	13：30～14：00	準 備	
	第5部 14：00～14：40 14：40～15：20 (40分交代)	病態薬科学	病態生化学 臨床腫瘍学
	15：20～15：50	休憩・ポスター貼替	
	第6部 15：50～16：30 16：30～17：10 (40分交代)	分析薬科学	薬品分析学 代謝分析学

6/24 (木)	13：30～14：00	準 備	
	第7部 14：00～14：40 14：40～15：20 (40分交代)	医療薬科学	薬剤学 薬物動態学 臨床薬学
	15：20～15：50	休憩・ポスター貼替	
	第8部 15：50～16：30 16：30～17：10 (40分交代)	医療薬科学	臨床薬剤疫学
		基礎科学	健康科学 物理学 薬学英语
		薬学教育	臨床薬学教育研究センター 情報処理教育研究センター
		附属施設	放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター

新任のご挨拶



生命薬科学系
微生物・感染制御学分野

やひろ きんのすけ
教授 八尋 錦之助

2021年7月1日付けで微生物・感染制御学分野の教授を拝命いたしました。私は、長崎大学工学部応用化学科を卒業後、同大学修士、博士課程にて、工学部の青柳晴彦教授(現名誉教授)、新留琢郎先生(現熊本大学教授)と長崎大学熱帯医学研究所細菌学教室の平山壽哉教授(現名誉教授、現AMEDプログラムオフィサー)のご指導のもと、ピロリ菌の空胞化毒素に関する研究を行い、博士(工学)の学位を取得しました。

日本学術振興会特別研究員をへて、千葉大学医学部病原細菌制御学で助教を勤めた後、2006年から米国国立衛生研究所(NIH/NHLBI)のMoss教授の下、ADP-リボシルハイドラーゼの宿主内結合蛋白質の研究を行いました。2009年に千葉大学医学部病原細菌制御学のテニュアトラック准教授として採用され、2013年テニュア准教授を取得しました。これまで、ピロリ菌や腸管出血性大腸菌等の産生する細菌毒素の宿主応答解析、病態発症機構に関する研究を多くの共同研究者と行ってきました。

本学では、微生物・感染症の講義や実習、研究を通して感染症を始めとする多くの分野で活躍できる人材の育成、本学の発展に尽力したいと思っております。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【寄稿】名誉教授授与にあたって

Report

■ 名誉教授 松田 久司

本年5月21日に学長室にて、理事長、副学長、事務局長同席のもと後藤直正学長より2021年4月1日付で「名誉教授称号証書」を拝受いたしました。過分にも歴史と伝統ある京都薬科大学からこのような称号を授かることは、とても光栄なことであり、心よりお礼申し上げます。

本学には、25年の長きにわたりお世話になりました。この時期は薬学部6年制への転換など大きな変動期でもありました。6年制薬学としての教育や実務実習の指導に関して充分ではなかったと反省すべき点もございますが、在職中、学生と一緒に楽しく学ぶことができ、充実

した毎日を送ることができたのも皆様のお陰と思っております。

京都薬科大学のさらなる発展をお祈りするとともに微力ながら私なりに応援していきたいと存じます。



(左から)後藤学長、松田名誉教授、土屋理事長

NEWS 人事異動

採用

生命薬科学系微生物・感染制御学分野
教授 八尋 錦之助
(任期2021.7.1～2031.6.30)

再任用

生命薬科学系細胞生物学分野 教授 藤室 雅弘
(以上任期：2021.7.1～2026.6.30)

昇任

事務局研究・産学連携推進室 主査 太田 亮史
(2021.7.1付)

配置換・兼務

事務局教務課 係長 土田 花美
(前 事務局研究・産学連携推進室)
事務局研究・産学連携推進室 主査 山川 晋平
(前 事務局施設課)
事務局学生課 主査 中野 美香
(前 事務局入試課)

事務局学生課 主査 佐々木雄太
兼務 事務局国際交流推進室

(前 事務局国際交流推進室)

事務局入試課 主事 佐藤 和巳
(前 事務局庶務課)

事務局庶務課 主事 西村 浩子
(前 事務局会計課)

事務局会計課 主事 五十嵐洋子
(前 事務局学生課)

事務局調達検収室 主事 萩 範子
(前 事務局教務課)

事務局施設課 事務員 磯部 正文
(前 事務局調達検収室)
(2021.7.1付)

兼務解除

事務局研究・産学連携推進室 主査 山川 晋平
(兼) 事務局調達検収室
(2021.7.1付)

2021年度前期 ハイブリッド型授業について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、2021年度前期は半数以上の講義科目について、対面授業と同時配信型授業を併用するハイブリッド型の授業を行ってきました。本稿では、2021年度の授業実施方法が決まった経緯と、ハイブリッド型授業を実現するために行ってきた本学の取り組みについて紹介いたします。

教務部長 栄田 敏之

Feature article.

■ 2021年度授業方針決定の経緯

2021年2月19日に、学長、教務部長の連名で2021年度授業実施方針についての通知をいたしました。概要として、2021年度は講義科目を対象に、ハイブリッド型授業を実施することについてお知らせするものでした。

2020年度はオンデマンド型授業が主体となっていました。各自で視聴スケジュールを管理する難しさなどから学習のモチベーションを保つことができない学生も見受けられました。そのため、今年度は講義室の数や同時収容人数の制限がある中で、より多くの学生に医療人になる為の学びを継続してもらうため、このような方針を決定いたしました。



前期授業初日の様子

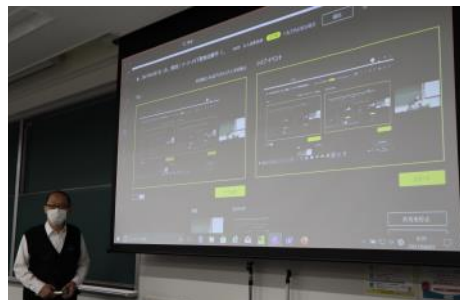
■ ハイブリッド型授業実現のための取り組み

ハイブリッド型授業では、講義室に来ている学生に対面授業を行いながら、同時に自宅や食堂で受講している学生に授業の配信を行う必要があります。こうした授業形態を実現するため、2021年度2月から3月にかけて、愛学館のA21、A31、A32、A41講義室及び、躬行館のQ21、Q22、Q23、Q24、Q31、Q32、Q33、Q34講義室を対象に、AV機器の改修工事を実施しました。具体的には、USBケーブルを通じ講義室のカメラ映像及び音声を取り込むための改修を行いました。

授業配信を行うためのソフトウェアは、Microsoft社が提供するTeamsを利用しました。本学はMicrosoft社と包括契約を結んでいるため、教職員及び学生はTeamsを利用することができます。多くの学生や教員にとってTeamsを使用することは初めての経験であったかと思いますが、概ね順調に同時配信型授業を始めることができました。

一方で、視聴権限の設定ミスや機器トラブルによる音声・映像の途切れにより、学生が予定通りに同時配信型授業を視聴できないケースも発生しました。学生には大変ご不便をおかけしておりますが、対応策について検討を進めておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

同時配信型授業は、午前中の講義科目を中心に行っていた一方で、午後に実施することの多い実技・実習科目や人と文化選択科目は、科目の特性や履修者数などの要因から、対面のみで授業を実施するケースも多くありました。そのため、日によって午前中は同時配信型授業、午後は対面授業といったケースが発生し、こうした日に学生が大学で同時配信型授業を受講できるよう、空き教室・PC演習室・食堂を視聴場所として開放いたしました。



AV機器を活用しました

また、2020年11月から12月にかけて、公衆Wi-Fiから学内無線LANへ統合するための工事を行いました。初期設定に少し手間取った方もいらっしゃると思いますが、2回目以降の接続作業は基本的には不要のため、多くの学生にとって快適にWi-Fiが利用できる環境になったのではないかと思います。

以上、ハイブリッド型授業が決まった経緯と本学の取り組みについて紹介いたしました。学生及び教職員の皆様のご理解とご協力により、2021年度前期のハイブリッド型授業は概ね順調に実施することができました。一方でまだ改善すべき点が多くあることも事実です。ワクチン接種が徐々に進んできているとはいえ、以前のように全ての学生を講義室に集めて授業を行うことができるのはまだ先になるかと思います。先行きの見えない中ですが、学生の学びを止めることが無いよう、より良い授業の在り方について継続し検討してまいります。



講義室の様子



愛学館食堂の様子

■ 職員・学生の声 ～前期の授業を振り返って～

かつみ ひでまさ

◇薬剤学分野 准教授 勝見 英正

3年次生 薬剤学B（14回）でハイブリッド型授業を担当させていただきました。緊急事態宣言前の4月の対面授業では、多くの学生の皆さんに出席いただき、久しぶりの緊張感とワクワク感を通じて対面のありがたみを実感しました。一方、緊急事態宣言期間においては、Web授業の視聴の割合が増えたため、対面で学生の皆さんの反応を見ながら授業を進めるのが難しい状況でした。しかしながら、Web授業を視聴している学生の皆さんから、responを通じて授業中に演習問題の解答がタイムリーに届いたり、授業終了後に小テストの解答が届くことで、学生の皆さんの学習の進捗状況がある程度把握できたことは、授業内容を考える上で大変助かりました。

Web授業の視聴でもなるべく対面授業と同等の内容と質が維持されるように、授業スライドや資料を工夫したつもりですが、学生の皆さんからの授業アンケートの回答を参考に内容を精査し今後につなげていきたいと思っています。

まつもと けんじろう

◇薬物治療学分野 准教授 松本 健次郎

ハイブリッド型授業を振り返りますと、「うまく配信されているかな」と毎回ハラハラしていたことが印象に残っています。薬理学Cの講義では、従来板書していた薬の作用機序の図をプリントに組み入れ、PDF中心のスタイルに変更しました。学生の反応は、良好でしたが、対面講義が隔週になってしまうため、学修の継続や資料の配布方法などの課題もあると感じます。今後は、動画の使用など、PC画面での視聴の利点を生かした講義を行っていきたいと考えています。

さいとう ちず

◇3年次生 齋藤 千寿

昨年度のオンデマンド配信型の講義では、自宅で受けられる一方、集中ができなかったり、生活習慣が乱れたりしていました。ハイブリッド型授業になってからは、同時配信や対面講義のための登校によってうまく切り替えができ、自分にあった学習習慣を確立することができました。新しい環境に対応しながら、無事に学習を続けられており安心しています。

いしだ ななこ

◇4年次生 石田 菜々子

オンデマンド授業、対面と同時配信のハイブリッド型授業の両方を受けて、私はオンデマンド授業の方が勉強効率は良いと思いました。オンデマンド授業では、授業速度を設定で変えることができ、また、一時停止できるので、一言一句メモして、テスト前には実況中継を読んでいるような感じで、勉強が気持ち良くスムーズにできました。ただ、ずっと家にいると、モチベーションを保つことは難しいと感じており、やはり毎日友人知人と会うことは大切だと思います。

第106回薬剤師国家試験の結果について

◇ストレートで卒業し、1回で合格しよう！そのためには普段の学修の積み重ねが重要！◇

Report

薬学教育研究センター長 細井 信造

第106回薬剤師国家試験（6年制薬学の10回目）が2021年（令和3年）2月20日、21日に実施されました。今回から新薬剤師国家試験出題基準に準拠して出題されています。前回（第105回）とほぼ同程度の難易度でしたが、代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）に基づいた、医療現場での実践力を問う問題および実験結果や図表から読み解く問題が増えています。単なる知識のみならず、読解力、思考力、応用力、実践力が求められています。「臨床力」を求めるような、実務実習の成果を問う問題、複数の疾患を抱える患者に対して、適切な治療薬を提案したり、医師のように患者背景から診断を求める問題、更には医師から処方提案を求められる問題など、チーム医療の一員として薬剤師の職能を発揮するための知識や判断力を求める問題も数多く出題されました。薬学理論問題では「物理・化学・生物」と「衛生」の3連問、「薬理」と「病態・薬物治療」の2連問など科目横断的に考える問題が出題され、このような問題は今後益々増えていくことが予想されます。また、化学構造式が「物理・化学・生物」および「衛生」のみならず「薬剤」「薬理」などでも見られたことから、化学構造から化学的・物理化学性質、薬物代謝様式および薬理作用等を推し量る能力が求められていると言えます。全体的には、「国が求める新しい薬剤師像が一層色濃く反映されていた」問題であったように感じました。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1) 男女別合格率①

区分	総数	男	女
出願者	15,680名	6,139名 (39.15%)	9,541名 (60.85%)
受験者	14,031名	5,375名 (38.31%)	8,656名 (61.69%)
合格者	9,634名	3,436名 (35.67%)	6,198名 (64.33%)
合格率	68.66%	63.93%	71.60%

(2) 男女別合格率②

区分		総数	男		女	
6年制 新卒	出願者	9,983名	3,673名	(36.79%)	6,310名	(63.21%)
	受験者	8,711名	3,138名	(36.02%)	5,573名	(63.98%)
	合格者	7,452名	2,668名	(35.80%)	4,784名	(64.20%)
	合格率	85.55%	85.02%		85.84%	
6年制 既卒	出願者	5,366名	2,272名	(42.34%)	3,094名	(57.66%)
	受験者	5,035名	2,076名	(41.23%)	2,959名	(58.77%)
	合格者	2,079名	716名	(34.44%)	1,363名	(65.56%)
	合格率	41.29%	34.49%		46.06%	
その他	出願者	331名	194名	(58.61%)	137名	(41.39%)
	受験者	285名	161名	(56.49%)	124名	(43.51%)
	合格者	103名	52名	(50.49%)	51名	(49.51%)
	合格率	36.14%	32.30%		41.13%	

(3) 設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	644名	631名	513名	81.30%	479名	478名	434名	90.79%	55名	51名	22名	43.14%	110名	102名	57名	55.88%
公立	288名	275名	230名	83.64%	219名	218名	197名	90.37%	26名	17名	3名	17.65%	43名	40名	30名	75.00%
私立	14,747名	13,124名	8,891名	67.75%	9,285名	8,015名	6,821名	85.10%	5,285名	4,967名	2,054名	41.35%	177名	142名	16名	11.27%
その他	1名	1名	0名	0.00%									1名	1名	0名	0.00%
本学	398	361	318	88.09%	351	318	295	92.77%	42	39	23	58.97%	5	4	0	0.00%

さて、今回の試験では、国公私併せて73大学の学生が受験しました。15,680名が出願し受験者総数14,031名中、合格者は9,634名で合格率は68.66%（第105回：69.58%）でした。6年制新卒の全国合格率は85.55%と僅かに上昇しました（第105回：84.78%）。また、6年制既卒者の合格率は41.29%と新卒に比べてかなり低く、年々その合格率が低下し、新卒合格率との差が大きくなる傾向にあります。本学では、新卒者318名が受験し、合格者は295名（合格率92.77%）、6年制既卒者は39名受験して合格者は23名（合格率58.97%）、4年制既卒者は4名受験して合格者は0名、本学総合合格率は88.09%で、全国総合6位（73校中）（第105回は8位）でした。2020年度はCOVID-19の影響で、入構および対面授業が制限され、学修指導・支援が十分とはいえない中、前年度を上回る結果となった要因として以下のことなどが挙げられます。

- 1) 各自、国家試験に向けて高い学修意識を持って計画的に取り組んだこと
- 2) アドバンスト薬学の講義は全て収録した後、できる限り早くオンデマンド配信し、何回でも視聴可能としたこと
- 3) 2020年度の薬学演習（対象者：5年次実力試験Ⅱおよび評定平均の下位学生）では主体的な学びを促すための事前課題（第105回薬剤師国家試験の必須問題のうち物理・化学・生物、薬理および薬剤について解説を考えさせる）を実施
- 4) アドバンスト薬学（6年次後期開講科目）終了後の指定演習（確認試験や模擬試験の成績下位者を対象）で、その日の担当教員・講師によるデイリーテスト（manaba上）のポイント解説をオンデマンドで配信

- 5) 前述4)の演習において、反復学修の一つの機会としてmanaba上でウィークリーテストを実施
- 6) 学内教員および外部講師による講義の質問対応の機会（メールでの対応やZoomでの質問会の開催など）を設けたこと
- 7) 当センター教員による質問対応および個別の学修相談（非対面）など、きめ細やかな学修フォローアップを行ったこと

次に、今春卒業した本学6年制10期生の評定平均と国家試験合否との関係を調べました。表2に示すように、これまでと同様、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均が下がるにつれて、卒業・合格率が低下傾向にあります。このことは、1年次からの学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。単位を修得するためだけの勉強ではなく、真摯に学問に向き合い、普段から将来の医療従事者としての自覚や国家試験等を見据えた高い学修意識を持つことが肝要と考えます。

表2. 評定平均と国家試験の合否との関係

評定平均 ※1	学生数 ※2	卒業者	合格者	不合格者	卒業・合格率
95点以上	0	0	0	0	—
90点以上95点未満	6	6	6	0	100.0%
85点以上90点未満	27	27	27	0	100.0%
80点以上85点未満	34	33	33	0	97.1%
75点以上80点未満	77	75	74	1	96.1%
70点以上75点未満	106	95	90	5	84.9%
65点以上70点未満	98	80	63	17	64.3%
65点未満	4	2	2	0	50.0%

※1 専門必修講義科目の平均点

※2 休学者1名を除く

本学6年制10期生に対しても、これまでと同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データ入力への協力を要請したところ、318名の受験者中274名が入力してくれました（入力率86.2%、前回：91.4%）。表3に示しますように、本学総合正答率は72.8%（厚労省通知）と前年度（72.2%）とほぼ同じであったことから、難易度は前回と同程度であったと言えます。平均正答率30%未満の問題が20題（前回27題）あり、その内訳は必須問題で1題（前回4題）、薬学理論問題で8題（前回12題）、薬学実践問題で11題（前回11題）と、前回に比べて減少していることから、難問の出題割合が減ったと言えます。科目ごとの正答率を比較しますと、物理・化学・生物はすべての問題区分において相対的に正答率が低いものでした。これは例年通り思考力を問う難しい問題が多かったと言えます。また、薬剤の薬学理論問題および薬学実践問題の正答率が他の科目に比べて低いものでした。これは、グラフや表問題、更には計算問題が多く難易度が高かったものと推察されます。薬理の必須問題、病態・薬物治療の薬学理論問題および薬理の薬学実践問題の正答率がそれぞれ、+14.8ポイント、+8.8ポイントおよび+7.6ポイントと前回は大きく上回っていることは、今回の本学の新卒合格率を押し上げた一因となっていると考えます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必 須 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	0	0	0	6	8	2	1	34
平均点	11.9	8.1	13.8	12.3	12.2	8.6	9.5	76.6
最高点	15	10	15	15	15	10	10	89
平均正答率	79.3%	81.5%	91.9%	82.3%	81.7%	86.5%	94.9%	85.1%
学内全体（新卒）								84.80%

問題区分	薬 学 理 論 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	30	20	15	15	15	10		105
最低点	7	5	4	3	5	3		40
平均点	15.9	13.5	11.7	9.2	9.8	7.6		67.8
最高点	30	20	15	14	14	10		99
平均正答率	53.1%	67.5%	77.9%	61.3%	65.6%	76.4%		64.6%
学内全体（新卒）								63.80%

問題区分	薬 学 実 践 問 題								
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	10	84	149	344
最低点	4	2	4	1	3	6	40	75	174
平均点	10.1	6.7	8.6	6.3	7.6	8.1	60.1	107.5	251.9
最高点	15	10	10	10	10	10	72	130	315
平均正答率	67.3%	67.2%	86.2%	63.1%	76.4%	80.5%	71.5%	72.1%	73.2%
学内全体（新卒）								71.80%	72.80%

第106回薬剤師国家試験における正答率の高い問題および低い問題の得点率と総得点率の相関を示します。正答率60%以上の問題（255題）と総得点率には強い相関が見られました（図1）。一方、正答率60%未満の問題（89題）と総得点率との相関は、正答率60%以上の問題との相関に比べると低いものでした（図2）。つまり、国家試験の合格基準をクリアするには、皆が正解する問題をしっかりと得点に結びつけることが大事ということです。そのためには、6年次に実施される確認試験および模擬試験の結果を見て、全体の正答率が高い問題で、自分が間違った問題については、必ず見直し定着させるよう努めることが重要です。

図1

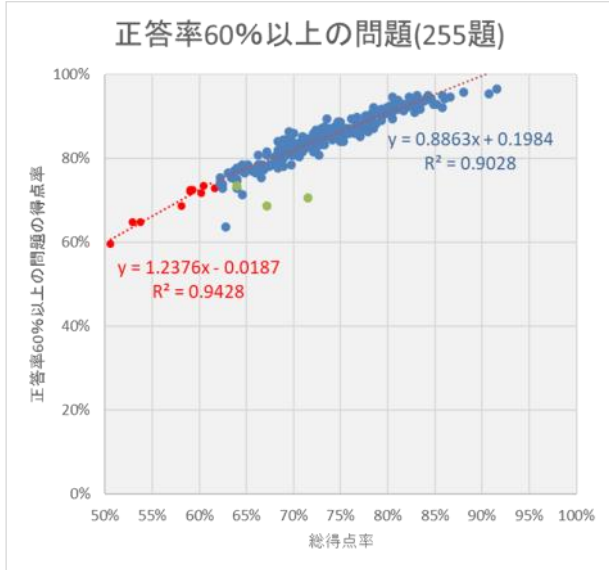
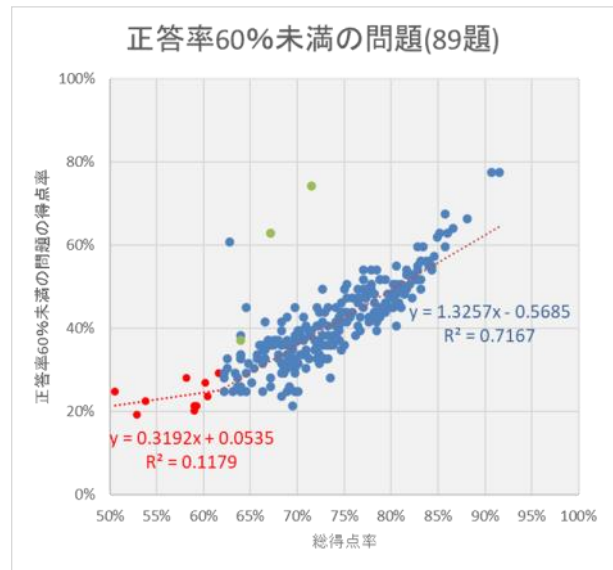


図2



＜第107回薬剤師国家試験に向けて＞

国家試験は年々難化しており、付け焼刃的な学修では対応できなくなっています。つまり、低学年次からの学修の積み重ねが重要であり、6年次になって焦って慌てて勉強しても間に合わない可能性が高いということです。1年次から国試対策をなさい！と言っているわけではありません。1～3年次生の皆さんは、日々の勉強をしっかりとすればよいのです。ただし、理解を伴わない丸暗記学修はダメです。4年次生以上の皆さんは、まずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭し、逆に武器（強み）に変えられるよう努力しましょう。基礎系科目、すなわち物理・化学・生物は他の科目の基礎であり、定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。薬理および薬剤は国家試験において、合格者と不合格者との正答率の差が大きい科目であることが判明しています。国家試験では内容が偏ることなく科目の垣根を越えて出題されますので、重要項目を中心に理解しながら、また他の科目と関連付けて勉強することが大切です。

今、成績がよくない、あるいは先行きが不安であると感じている学生さんは、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。分からないことを放置するのではなく、ちょっとしたことにも疑問を持ち、直ぐに調べ、解決するように努めることも大切ですし、友達と教え合うことも効果的な学修方法です。各教科の内容に関する質問については『オフィスアワー』を、学修に関する悩み相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。国家資格取得は、あくまでも通過点にすぎません。皆さんそれぞれの目標を達成するためには平素の努力の積み重ねと早めの行動が大切です。

「Your efforts bear fruit!」

2022年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）・ 薬科学専攻博士後期課程（夏季募集）の入学選考結果

Report

入試課

2022年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）・薬科学専攻博士後期課程（夏季募集）の入学選考を8月20日（金）に実施し、8月26日（木）に合格発表を行いました。入学選考の結果は次の通りです。

○2022年度大学院薬学研究科
薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	9名
受験者数	9名
合格者数	9名

○2022年度大学院薬学研究科
薬科学専攻博士後期課程（夏季募集）

志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	1名

8月7日(土)・8日(日)の2日間、オンラインオープンキャンパスを開催しました。6月は緊急事態宣言下ということでオンラインでの実施を余儀なくされ、8月は対面での実施を計画しておりましたが、直前になって京都府にまん延防止等重点措置が適用されたことからオンラインでの実施となりました。

両日合わせ、353人の事前予約がありました。最新の配信設備を備えたQ361・Q362セミナー室を会場とし、「学長メッセージ」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」を実施、その後、新コンテンツである「臨床現場で活躍する薬剤師」、「リモート体験実習」を実施しました。また、教職員による「個別相談会」と学生企画「京薬キャンパスライフ紹介」を実施しました。

「在学生の話」は、6年次生の山下真歩さんと小林達弥さん、「卒業生の話」は沢井製薬株式会社にお勤めの中田葵さん、株式会社マツモトキョシホールディングスにお勤めの元村大基さんに講演を行っていただきました。

新企画である「臨床現場で活躍する薬剤師」は臨床現場で薬剤師が何を考え、どのように行動しているかを動画で解説した後、薬剤師資格持った教員がリアルタイムで質問に回答するプログラムです。動画は今後シリーズ化する予定にしています。



後藤学長のメッセージ

「臨床現場で活躍する薬剤師」
質疑応答の様子

また、こちらも新企画である「リモート体験実習」は、対面型で実施予定であった体験実習を動画にして解説、分野の教員および学生がリアルタイムで質問に回答するプロ

グラムです。

参加者アンケートからは、「大学紹介や在学生の話等、大学生活を身近に感じる事ができた。」、「勉強のやり方や薬剤師としての心得を知ることができ、充実した時を過ごすことができました。」、「リモート体験実習が楽しかったです。とても興味が湧きました。」、「先生方、卒業生の方、在校生の方が、分かりやすく色々なお話をしてくださったので、薬学部での大学生活をイメージする事ができました。」などの声がありました。

学生企画「京薬キャンパスライフ紹介」では、大学生活や通学路、大学施設について、高校時代の勉強法などを紹介し、リアルタイムでの質疑応答を行いました。アンケートからは「最後の学生企画がとても参考になり良かったです。」「在学生の方々皆さんとても優しく良い方々で、憧れました。」「学生企画の通学路の紹介や施設紹介で学校のイメージがとてもしやすかったです!」と両日共に大変ご好評をいただきました。

一方、「実際に現地で体験したかった。」「オンラインではなくて実際の京都薬科大学を見てみたいと思いました。」等、対面型を望まれる声も少なくありませんでした。

今回は10月となりますが、新型コロナウイルス感染症が収束し、多くの方に大学にご来校いただき、大学の雰囲気を実際に感じていただけることを願っております。今後もより一層充実したオープンキャンパスにしたいと思っております。



学生企画のメンバー

News 京薬会だより

＜京薬会から奨学金基金への贈呈＞

学生の皆さんを支援するため、本年も大学奨学金基金へ奨学金100万円を贈呈することとなり、令和3年8月24日に京薬会西野会長から土屋理事長へ目録を贈呈しました。

コロナ禍で一変した学業スタイルとなりましたが学業と学生生活の充実に一生懸命に取り組んでいただくことを同窓会一同期待しております。



(左から) 西野会長、土屋理事長

8月1日（日）、本学A22実習室にて、市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」と共に、理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2021 イン山科」を2年ぶりに開催しました。地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で10回目を迎え、山科区の小学生にとって夏の恒例行事になっています。昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、残念ながら中止となってしまいました。今年度は地域の方々の「ぜひ開催して欲しい」という声を受け、参加児童の定員を40人に制限し、フェイスシールドの着用など感染防止対策をとった上での開催となりました。

当日は、学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、14名の地域ボランティアスタッフのサポートのもと、山科区の児童37名が白衣に身を包み、実験を通して身近な科学の不思議を体験しました。今年のテーマは植物の色素「アントシアニン」です。pHにより様々な色に変化する性質を利用して2つの実験を行いました。

1つ目の実験「紫色の秘密～植物の色素で身近な溶液を調べよう～」では、アントシアニンを多く含む紫いもを使用し、レモン汁や虫刺され外用薬などの身の回りにある溶液の性質を調べました。紫いも液に身近な溶液を加えた瞬間の色が変化する様子に目を輝かせ、一つ一つの溶液の結果を熱心に観察している子どもたちの姿が印象的でした。



カラフルになりました



色の変化を観察中

2つ目の実験「寒天に3D模様をつけてみよう」は1つ目の実験の発展編です。アントシアニンの性質と食塩の電気分解を利用して、紫キャベツ液で作った寒天に電気を流し、模様をつけてもらいました。青紫色の寒天が電極の+極では赤色に、-極では黄色～緑色に変化する様子に「色が変わった!」「こういう模様をつけてみたい!」と会場は盛り上がり、子どもたちの自由な発想で、夢中になって取り組んでいました。



どんな3D模様になるかな?



上手にできました!



児童も真剣に説明を聞いています

実験終了後のアンケートでは、「今まで知らなかったことを知ることができて楽しかったです。」「理科が好きになりました。家でも実験をしたいです。」「新型コロナで色々なことができなかったけど、参加できて嬉しかったです。」などの感想をいただきました。今年度も参加した子どもたちに楽しく実験をしてもらい、理科に興味を持つきっかけとなったことをとても嬉しく思います。

最後に、講座の実施にあたり、地域ボランティアスタッフの方々にご協力をいただき、各実験台にて子どもたちの実験をきめ細かくサポートしていただきました。地域ボランティアスタッフの存在は欠かせません。この場を借りて市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」の皆様にも深く感謝申し上げます。



地域ボランティアスタッフのサポートは欠かせません

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の児童の理科教育の一助となれるよう、市民組織と共にこの取り組みを継続していきたいと考えています。なお、本講座は独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施いたしました。

2021年7月4日（日）に「卒業生・在学生交流会（オンラインLIVE）」を開催しました。本プログラムは、在学生の職種理解を深めること、そして卒業生の方々には母校との関わりを持っていただくことを目的とし、2014年度から毎年開催しています。

今回は昨年度に引き続き、Web会議ツールを用いたオンラインLIVE形式で実施しました。

開催方式としては、時間割を3つのセッション（各

50分）に分け、それぞれの時間にWeb上のルーム（部屋）を2～3つ設けます。卒業生には、職種ごとに入室するルームを分かれていただき、在学生は、話を聞きたい職種のルームを選んで入室します。各ルームでは、卒業生の仕事内容紹介や在学生からの質疑応答など、座談会形式の交流を行います。1日のうち、最大3つの職種の話を聞く事ができる形で

	メインルーム	ブレイクアウトルーム1	ブレイクアウトルーム2	ブレイクアウトルーム3
13:00～13:10	オープニング	—		
PM① (13:20～14:10)	—	製薬企業（MR） 参加人数：35名	その他企業 参加人数：40名	薬局・ドラッグストア 参加人数：25名
PM② (14:20～15:10)	—	製薬企業（その他の職種） 参加人数：42名	製薬企業（開発）CRO 参加人数：41名	—
PM③ (15:20～16:10)	—	製薬企業 参加人数：41名	病院 参加人数：32名	公務員 参加人数：7名
16:10～16:20	エンディング	—		

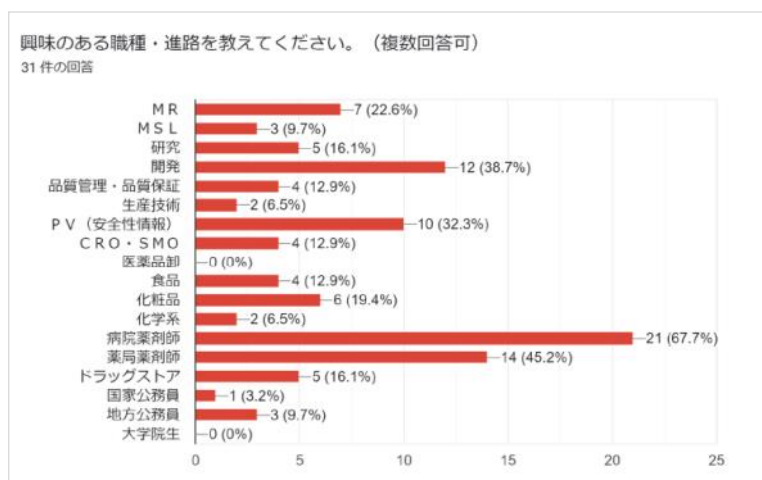
参加人数としては、卒後3～5年目の卒業生22名、在学生（予約者数）128名と多数の参加を得て、大変盛況に会を終えることができました。

事後のアンケートでは7割弱の人が進路に対する考えの変化があったと回答しており、卒業生の皆様の「生の声」が学生の視野を広げることにつながったようです。「改めて将来の進路について考えるきっかけとなった」、「就職してから後悔しないためにも今日のお話を今後の就活に生かしていきたい」な

ど少なからず刺激を受け、有意義な機会になったとの感想が多くありました。卒業生の皆様からも「自分自身の振り返りをすることができました」、「少しでも恩返しが出来ていたら嬉しいです」など、好評の声をいただきました。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

【アンケートの結果】



■「現在申込受付中」および「今後申込受付を開始する予定」の研修会をご紹介します。
皆さんの参加をお待ちしています。

◇「eラーニング講座」 ※申込受付中

2021年度「卒後教育講座」および「漢方講座」を新規コンテンツとし、2020年度「漢方講座」2019年度「卒後教育講座」（2020年度はCOVID-19禍により不実施）も含めてWEB配信します。配信期間中は何度でも視聴できます。

※配信期間：2021年6月1日（火）～2022年2月28日（月）

※受講料：15,000円（視聴及びPDF資料ダウンロード）

※申込受付期間：2021年4月1日（木）～2022年2月28日（月）

※認定単位：1単位／1コンテンツ 京都薬科大学認定単位G24

☆1コンテンツごとに視聴後に確認テストを実施し、正答率2/3以上で合格とし1単位を認定します。テストは複数回受験できます。

☆認定単位は、1ヶ月分をまとめて送付します。

☆過去にeラーニング講座や卒後教育講座を受講して既に認定単位を取得しているコンテンツの視聴は可能ですが、単位の認定はありません。

2021新規 配信コンテンツ ※新規コンテンツは収録後、配信追加していきます。				
1	2021年度卒後教育講座	慢性腎臓病の考え方と腎機能低下時の薬物投与について	14	【基礎】頭痛の漢方治療
2		CKD患者における薬物動態の変動	15	【薬物】知っておきたい漢方配合生薬(その1)
3		小児薬物療法の現状と問題点 ～小児薬物療法において薬剤師は何をすべきか～	16	【臨床】漢方薬局での店頭経験～炎症性疾患～
4		アレルギー性疾患について～特に、アレルギー性結膜疾患について～	17	【基礎】四肢の痛みの漢方治療
5		即時型アレルギーのメカニズム	18	【薬物】生薬の選品と鑑別(2)
6		検査値を用いた個別化医療の実現	19	【臨床】眼科領域における漢方治療
7		地域包括ケアシステムにおける薬局の役割	20	【基礎】風邪の漢方治療
8		薬局・病院での栄養療法の基礎から実践まで ～現場で使える栄養療法～	21	【薬物】薬局・薬剤師の為の分かり易い漢方 (1)『山本巖流一貫堂漢方医学』～3つの体質～ (2)『腰から下の痛み』
9		薬局・病院での栄養療法の基礎から実践まで ～現場で活かせる基礎知識～		
10	京都漢方研究会 特別公開講座	難治性慢性炎症症候群に対する山本巖医学の治療戦略 ～一貫堂解毒剤・駆瘀血剤の現代医学的な使い方～	22	【臨床】素晴らしい漢方！ 古から学び、そして薬能も考える漢方
11		実臨床に役立つ漢方口訣－臨床経験知としての古典	23	【基礎】咳・痰の漢方治療
12		ペインクリニックによる痛みの漢方治療 第1弾	24	【薬物】漢方製剤を併用する考え方：アトピー性皮膚炎治療を例にして
13		COVID-19感染症における漢方医学の役割	25	【臨床】漢方の森の中で迷わないために ・・・これだけは押さえておきたい疾患の漢方治療

既年度分 配信コンテンツ				
26	2020年度卒後教育講座	認知症診療の現状と展望	37	【基礎】入門講座『気血水②』
27		アルツハイマー病に対する新規治療法開発に向けた基礎研究の動向	38	【基礎】入門講座『蔵象学説①』
28		これからの在宅チーム医療	39	【基礎】入門講座『蔵象学説②』
29		地域連携によるポリファーマシー対策	40	【薬物】処方解説（処方名の意味）
30		脂質異常症治療の現状	41	【臨床】漢方の森の中で迷わないために ・・・本音で語る第2弾～消化器疾患を例に～
31		病態と治療薬がみえるリポタンパク質代謝の異常	42	【薬物】漢方薬・生薬の現代薬理学的解明
32		薬剤費上昇抑制における薬剤師の役割	43	【臨床】更年期疾患における漢方の役割と活用法
33		地域フォーミュラリーを正しく理解するために	44	【薬物】精神科領域で処方される漢方薬の服薬指導
34		【基礎】入門講座『四診』	45	【臨床】足は第二の心臓：漢方を中心に足を識る・診る・治す
35		【基礎】入門講座『八綱』	46	【薬物】生薬の選品と鑑別(1)
36	漢方講座年度	【基礎】入門講座『気血水①』	47	【臨床】中医弁証論治の応用

◇実務支援セミナー 「注射薬の無菌混合調製実習」

実際にクリーンベンチ、医薬品等を使用した実習です。リピーターの受講可ですが、注射薬無菌混合調製の経験が少ない方を対象とします。

＊開催日時：2022年2月27日（日）10：00～16：00

＊開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階 R23演習室・1階無菌室

＊講師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 中村 暢彦 先生 他

＊定員：20名（薬剤師限定） ＊受講料：10,000円 ＊認定単位：G24 3単位

＊申込受付期間：2021年12月8日（水）～2022年2月14日（月）

◇申込方法

生涯教育センターホームページよりお申込みください。

<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>



生涯教育センター
トップページ



eラーニング講座
申込ページ



実務支援セミナー
申込ページ

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

＊TEL：075-595-4677（平日10:00～16:00）

＊FAX：075-595-4792



生涯教育センター
Facebook



生涯教育センター
Twitter

私の薦める、私の一冊 Column

おおた ひろゆき
事務局 教務課 太田 寛之

『そして最後にヒトが残った』

クライブ・フィンレイソン 著

上原直子 訳

近藤修 解説

白揚社

太古の昔、我々の祖先は地殻変動で接続された新天地を発見し、先住民と出会います。彼らネアンデルタール人は驚いたでしょう。自分たちに似た生き物が、多様な音を発し合いながら集団で動き回っているのですから。

これまで、ネアンデルタール人は野蛮な一匹狼というイメージを持たれていました。確かに、彼らの骨の化石からは骨折や動物の歯形の跡など、格闘に明け暮れた証拠が多く見つかっています。一方で、動物の

骨に幾何学的な傷を付けたりと、仲間の遺体に花を手向ける（周辺とは異なる量の花粉が骨とともに出土する）など、現生人類と同様に創造性を持ち、仲間の死を悼む心があったのではないかとされています。我々よりも屈強な彼らがなぜ、約4万年前に地球上から姿を消し、脆弱だった我々だけが残ったのか。この問いに対し、本書では数多くの科学的根拠を駆使した考察を試みています。

本書刊行後の話ですが、生物学者のスバンテ・ペーボらの研究グループは、2010年にゲノム解析により私たちがネアンデルタール人の遺伝子を受け継いでいるとの論文を発表し、世界中に衝撃が走りました。さらに最近では、COVID-19に関連する遺伝子も受け継いでいる可能性が示唆され、注目が集まっています。

興味本位で手にした人類史の本が、まさかCOVID-19につながるとは思いもよらず、寄稿させていただきました。みなさんもぜひ、専門外の学問にも積極的に興味を持ち、新たな知見を探してみたいかがでしょうか。



本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価をセメスター毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。アンケートの回答方法はmanabaから講義科目コースにアクセスして行います。講義科目の各教科評価対象となる教員は専任教員及び非常勤講師です。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策としてオンデマンド型授業となり、例年とは異なった授業形態によるアンケートとなりました。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは冊子体にして図書館で公開し、閲覧ができるようにしています。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員及び学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

2020年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。

■「学生自身の授業で学ぶ態度」と、「教員の授業に関する項目」について別々に評価をしてもらいました。

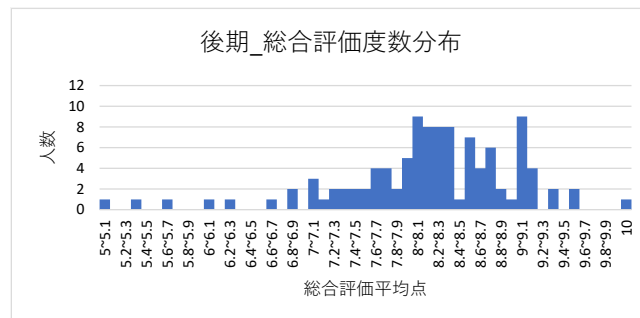
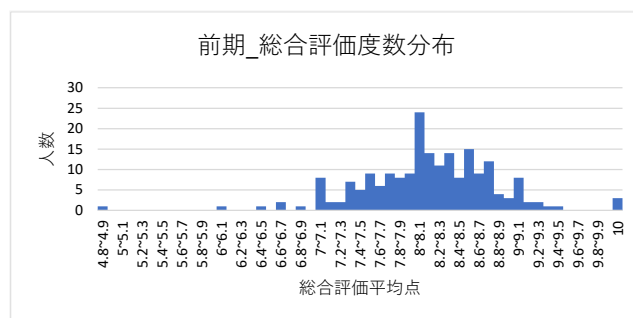
◇「学生自身の授業で学ぶ態度」について

設問	前期評価	後期評価
Q1 予習・復習などの授業外学習を十分に行い、この授業に対して意欲的に取り組んだ。	4.11	3.90
Q2 授業の到達目標を達成できた。	4.10	3.89
Q3 授業で学んだことを、他の授業の内容（今までに学んできたこと、他の科目など）と関連付けながら理解することができた。	4.11	4.07
Q4 授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからもより深く学びたいと思った。	4.17	4.06

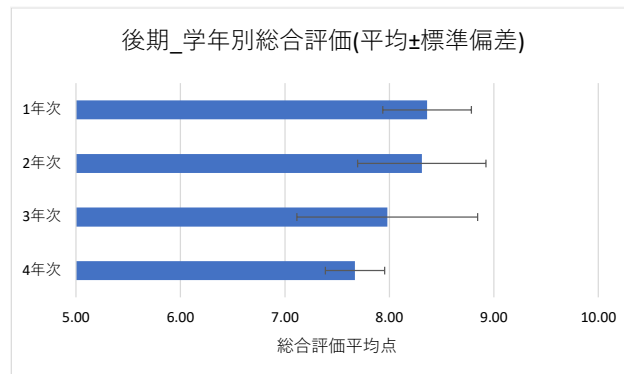
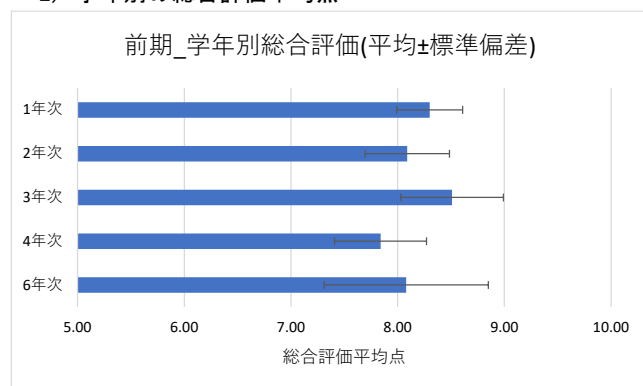
(5段階評価)

◇教員の授業に関する項目

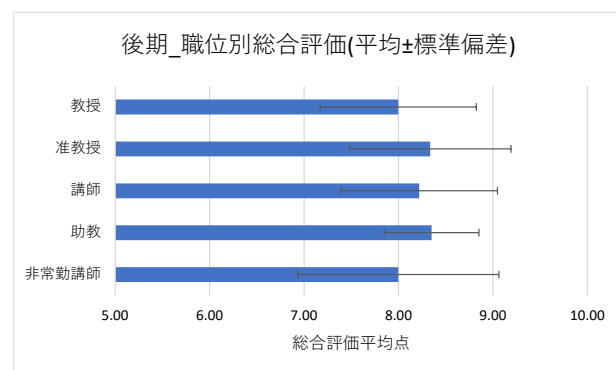
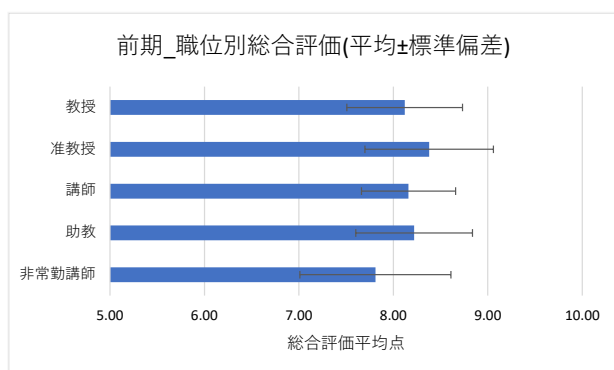
1) 科目・教員別総合評価の分布



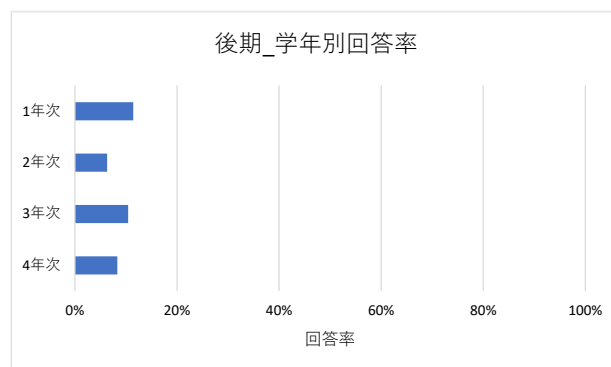
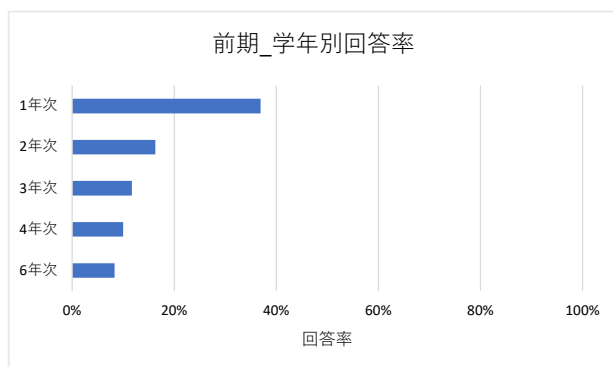
2) 学年別の総合評価平均点



3) 職位別の総合評価平均点



4) 学年別のアンケート回答率



■ まとめ

最後に、授業アンケートにご協力いただいた学生諸君に感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指したいと思います。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答へのご協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。



図書館

1F展示コーナーをプチリニューアルしました！

入館ゲートを入ってすぐの展示コーナーでは、利用者の皆様の目につきやすく、本を手にとってもらいやすい書架を目指し、このたびプチリニューアルを行いました。

スペースに余裕がある雑誌架を活用し、シラバスで授業の参考書として指定されている図書を集めた「シラバス掲載参考書コーナー」を設置しました。また、展示資料数が増えてきた「KPU^{NEWS}コーナー」も雑誌架へ移動し、本の紹介POPなども一新しました。

ブラウジングコーナーには、新たに時事問題や季節の話題など、スタッフが選んだトピックスにちなんだ図書を展示する「PICK UP NEWSコーナー」を設置、毎年、各分野・センター及び非常勤講師の先生方よりご推薦いただく「学生用図書」も、今年度より推薦者をわかりやすく表示するようにしました。専門図書だけでなく、幅広い分野の図書が並んでいますので、ご自身の所属や専攻に限らず、ぜひ手に取ってご覧ください。



シラバス掲載参考書コーナー



KPU^{NEWS}コーナー

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>





“ぶつぶつ”のほとんどを、“お神酒”のお力による、手帳への殴り書きから始めてきた。いまでも、そのお力なくしてではあるが、昨年2月以来、一度も、一度も、自宅以外にお参りしたことはない。そんなストレスフルな日々、ふと「おもしろきこともなき世をおもしろく 住みなすものは心なりけり」（高杉晋作）がついてでてきた。下の句はまあええとして、なんかおもしろいことはないかと思回したところ、数年前に衝動買いしたものの、大して使わずに放置していたカメラと目が合った。

大津市仰木に流れる天神川支流に生えた樹にクロアゲハがせわしなく群れ飛んでいた。アゲハを撮ることに一段落したとき、特有の匂い、チアミン臭が漂っていることに気づいた。樹勢、葉、白い花、匂いからクサギ（臭木）と知った。

その後、原料の草木を自ら採取し、糸を染め、布を織られる、染織家の志村ふくみさんのエッセイ「天青の実-くさぎ」（『一色一生』）に出会った。『初夏。桐の葉に似た青々とした葉がぐれに、白い花冠が一面にひろがり、その存在をた



クサギの実（201004）@大津市千野

しかめておくのに好都合である。白い花が散る頃になって、ふと気がつくと、淡い緑の萼（がく一筆者）が何やら小さい玉を抱いている。日ましに萼はほんのりと紅をさし、少女の耳朶のようなふっくらとした厚みをもつようになり、やがて萼は星形の真紅の褥（じょく一筆者）になって、その中心に瑠璃色の玉が姿をあらわすのである。』。なぜ、アゲハが飛ぶ樹のことを私が書かなかったのか、お分かりでしょう。志村さんの名文を知っては書けはしない。

季節の移ろいがもたらす実の形成を見たくなった。私が初めて見たときは8月初旬、一面に白い花が咲いていた。その後、なかなか機会を得ることができず、行ったときはすでに遅し、淡い緑の萼どころか、褥は色を失い、瑠璃色の玉はほとんどなかった。来年まで待つのかと思えば、見たいは募る。

クサギの季節はとうに過ぎ、ヒガンバナの季節となつたころ、四季を通して歩く道に紅の褥と青い玉が落ちていた。見上げると真紅の星形萼に包まれた瑠璃色の玉があった。クサギのことを学んだ私にクサギがここよと発した気がした。

志村さんによれば、クサギの実からとった染料で染めた糸は透き通った青い空の色で、台湾國立故宮博物館に収蔵されている水仙盆の色だそうである。2016年に東洋陶磁美術館（大阪中之島）で開催された特別展で見た、あの「雨上がりの空の色」かと。

実をつけたクサギと出会い、募る思いが晴れたが、そのときの空の色が雨上がりの色だったという、そんな詩的なことはたやすく降ってはこない。アゲハから始まり、クサギ、瑠璃色の実、水仙盆が偶然にも遭遇した。おもしろきこともなき自粛の世でさえ、ちょっとした行動で、少々おもしろくなるのを味わった。



■ 人とのかかわりを保つことの大切さ

すでに2年近くになってきたコロナ禍における生活では、それ以前には一般的ではなかった様々な習慣が今や当たりまえになっています。例えばマスク生活はその一例です。また、あらゆる場所に存在するアクリル板、食事場所での黙食等も日常的な光景となっています。

大学では対面授業に加え、オンライン授業あるいはオンデマンド授業というICTを活用した新しい授業形式が導入され既に1年以上が経過しました。大学だけではなく、義務教育でもICTは欠かせないものとなってきています。公立小中学校では、昨年度、GIGAスクール構想の名のもと、一人一端末のタブレットが配布されました。そして、端末を使用した学習がすでに始まっているようです。

本学の学生相談室においても、コロナ禍以前は、原則的に相談を対面で実施していました。なぜなら、カウンセリングは対面相談が望ましいという考え方が一般的であり、電話等の間接的な手段での相談は対面相談の補助的な位置づけだったからです。現在は、感染拡大防止のスタンスから電話相談も選択肢の一つとしています。時代の流れも相まって、様々なツールを用いたオンラインカウンセリングが珍しくない時代を迎えつつあるのかもしれません。

このように、コロナ禍では、ソーシャルディスタンスを保つことや、人と人とが直接会うことなくコミュニケーションが可能になる環境整備が不可欠となりました。そして、その環境は科学技術の進歩によりかなり整えられてきています。今後、この危機的な社会状況が収まるにつれ、再び人と人とが対面して関わりあえる機会が増えると予想されるとはいえ、この大きな変化を経験したコロナ後の生活は、それ以前にすっかり戻るということはないでしょう。コミュニケーション

ツールはより改良され、対面コミュニケーションの機会は減るかもしれませんが、ICTの進歩で遠隔コミュニケーションは随分容易にはなってきましたが、例えば、人としばらく話さない期間を挟むと、知り合いに会った時に、話しづらかったり、自然に振舞いにくかったりすることはありませんか？人と直接関わり、コミュニケーションを取ることは時には煩わしく、非効率的な場合もあるかもしれませんが、実は人間に備わっている「社会的関係を維持するという大切な力」を保つことにつながります。また、関わりの中において、「自分が困っていたら助けを求められる、人が困っていたら手助けしよう」といった相互扶助の在り方は、これまでも、そして、これからの時代にも必ずや必要なことです。その際、困っている人がどの程度深刻な状況なのか判断するためには、表情や顔色、声のトーン等、人が五感で感じ取る情報も大きな手掛かりとなるため、対面コミュニケーションが不可欠な時もあるでしょう。

まだまだ行動制限を余儀なくされるこの状況においては、気づかぬうちに人と疎遠になってしまいがちです。コロナ禍ということもあり、可能な範囲でという条件付きにはなりますが、友達や家族に連絡をとって会ってみる、知り合いに話しかけてみる等の対人関係の維持は大切です。直接会うことが難しくても電話やLINE等で関わりを持てるといいですね。

もし、孤立感を感じていたり、独りでいろいろと抱えていたりするのはしんどいな・・・という時には学生相談室の利用もご検討ください。「何がしんどいか、何がつらいのか」等がはっきりしていなくても、例えば、「誰かと話した方が精神衛生上よさそうだ」「特にまとまっていけどなんだかモヤモヤするので誰かに話したい」といったことでももちろん大丈夫です。ご利用をお待ちしております。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保護者や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

なお、COVID-19感染拡大防止の観点から、対面相談のほか、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

- ・ 開室（受付）時間 : 月～金 8:45～17:15
- ・ 電話 : 075-595-4672（建部）／075-595-4986（上野）
- ・ メール : gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

興味を大切にしてください

ひさの しょうへい

久野 翔平



2016年 学部卒業
(公衆衛生学分野)

奈良県庁
薬務課 主任技師

私の大学時代の生活は、褒められたものではないかもしれませんが、すべての勉学に真面目に取り組むことはできなかったように記憶しています。しかし、研究室やバレーボール部での活動など、興味のあることは全力で取り組みました。研究室活動では、同じチームの仲間や分野の先生方の力を借り、未知の物質を探索するため、方法を模索していました。新しい物質を発見するには残念ながら至りませんでしたが、忍耐力やプレゼンテーションの方法等、社会に出ても役に立つ力を養うことができました。

話は変わりますが、現在、公務員として働いています。実は入学当初、病院や薬局等で臨床薬剤師として働くことをイメージしていました。大学では様々な講義があり、その中で微生物学、感染症学の講義がとて面白く、細菌やウイルスに興味を持ち、少しずつ思い描く進路が変化していきました。食中毒を引き起こす微生物について講義で取り上げられた際に、何らかの形で食品衛生に

関わりたいと考え、公務員になりました。

入庁してからの3年間は、奈良県保健研究センターで細菌検査を担当しました。主に食品や温泉水等の検査を行い、腸管出血性大腸菌O157やレジオネラ属菌など、大学で学んだ病原細菌が目の前でコロニーを作って存在しており、貴重な経験ができました。食中毒を疑う事例は想像していたより多く、毎週のように病原細菌の検査を行っていたこともありました。また、公衆浴場が原因と推定されるレジオネラ肺炎の患者が発生すると、浴槽水の検査を行うことがあり、自分の行った検査結果を基に保健所職員による指導が行われ、施設の衛生改善につながった際にはとてもやりがいを感じました。4年目には、薬務課に異動となり、薬局や店舗販売業等の許認可事務など全く異なる業務を担当しています。様々な業者の方と基準に適合する薬局やドラッグストアを作り上げることができる楽しさがあります。最近では携わらせていただいた薬局やドラッグストアも少しずつ増え、県内を移動していると目にすることも多く、感慨深いものがあります。

大学では講義や研究室、部活動などを通じて、夢中になれること、興味のあることを見つけることができ、入学当初に想像していた社会人生活と異なる生活を送っています。大学時代の過ごし方で今後の未来は本当に変わると思います。しかし、大学生活はあっという間に終わってしまいます。限られた大学生活の中で一つでも興味の持てることに出会え、何かに夢中になれる有意義な大学生活にしてください。

受賞・掲載

Report

■薬剤学分野の山本教授が日本薬剤学会賞を受賞しました

2021年5月13日(木)～15日(土)にオンラインで開催された日本薬剤学会第36年会において薬剤学分野の山本教授が薬剤学、製剤学、製剤技術並びに医療薬剤学の発展に関し卓抜した業績が認められ、日本薬剤学会賞を受賞しました。

受賞者：薬剤学分野 教授 山本 昌

演題：ペプチド・タンパク性医薬品をはじめとする難吸収性薬物の消化管・経粘膜吸収性の改善方法の構築ならびにその吸収改善機構の解析



■薬剤学分野の北田翔さんが日本薬学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました

2021年5月13日(木)～15日(土)にオンラインで開催された日本薬学会第36年会において、薬剤学分野6年次生の北田 翔さんが永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。

受賞：薬剤学分野 6年次生 北田 翔

演題：セリン修飾高分子を利用したドキシソルビシンの腎臓ターゲティング
およびその腎細胞癌治療への応用

演者：北田 翔、勝見英正、安岡慎太郎、松浦 悟、森下将輝、山本 昌



■細胞生物学分野の酒井智帆さんが第21回Pharmaco-Hematologyシンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞しました

2021年5月22日(土)にオンラインで開催された第21回Pharmaco-Hematologyシンポジウムにおいて、細胞生物学分野6年次生の酒井智帆さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：細胞生物学分野 6年次生 酒井 智帆

演題：B型肝炎ウイルス様粒子を用いた肝臓を標的とする薬物・遺伝子送達キャリアの開発

演者：酒井智帆¹、細川晃平¹、渡部匡史¹、中野隆史²、鈴木陽一²、上田啓次³、藤室雅弘¹

(1. 京都薬大 細胞生物学, 2. 大阪医大 微生物学, 3. 阪大院医 ウイルス学)

■臨床薬学教育研究センターの中村講師が「日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会」において最優秀演題賞を受賞しました

2021年6月19日(土)にオンラインで開催された「日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第15回学術大会」において臨床薬学教育研究センターの中村講師が最優秀演題賞を受賞しました。

受賞者：臨床薬学教育研究センター 講師 中村 暢彦

演題：ドセタキセル160mg製剤の複数回使用による廃棄コスト削減の検討

演者：中村暢彦、春名康裕※、武田智子※、長谷川晃司※、矢野義孝、楠本正明

※京都中部総合医療センター 薬剤部

■統合薬科学系の福田愛菜さんが第139回日本薬理学会近畿部会において学生優秀発表賞を受賞しました

2021年6月26日(土)にオンラインで開催された第139回日本薬理学会近畿部会において、統合薬科学系の福田愛菜さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

受賞：統合薬科学系 博士課程3年次生 福田 愛菜

演題：ヒトiPS細胞由来アセチルコリン作動性神経細胞とpH click Aβを用いたAβオリゴマー依存的細胞死モデルの構築と細胞死メカニズムの解析

演者：福田愛菜、西村周泰、高田和幸 (京都薬科大学・統合薬科学系)

■薬剤学分野の福井美奈子さんが第37回日本DDS学会学術集会において優秀発表賞を受賞しました

2021年6月29日・30日に千葉(現地とオンライン)で開催された第37回日本DDS学会学術集会において薬剤学分野の福井美奈子さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：薬剤学分野 6年次生 福井 美奈子

演題：水酸基修飾を利用した血中滞留性デンドリマーの開発と肺転移治療への応用

演者：福井美奈子、勝見英正、吉岡綾音、松浦 悟、森下将輝、山本 昌

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。
- * 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2021年6月～2021年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（五十音順）＞

奥川 斉 奥川 信子 京薬会

＜企業・団体・一般＞

キノンビクス株式会社

＜ 法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

高野 江里（課 長） 土屋 勝（理事長） 中谷 庄吾（課 長）

（2021年8月31日現在）



KPUNews No. 207 2021年10月発行／編集：KPUNews編集委員会
発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。